

令和4年度第1回 審議会議事録

日 時：2023年1月30日 14:00～15:30

場 所：摂津市環境センター 新館3階 見学者室

参加者：審議会委員：尾崎会長、大下副会長、永田委員、前川委員、井上委員、島内委員、
榎谷委員、月光委員、阪本（剛）委員、阪本（舞）委員

事務局：吉田部長、安田参事、橋本課長代理、三浦環境センター長

資 料：① 第1回審議会議事次第

② 令和4年度摂津市廃棄物減量等推進審議会第1回審議会資料

③ 摂津市一般廃棄物処理実施計画

【議事1、2】委嘱及び挨拶・会長副会長の選出

【議事3：一般廃棄物処理基本計画（1）広域化開始に伴う計画の一部文言等修正について】

事務局より説明。

【質疑応答】

委 員：広域化に伴い変更点があったが、茨木市の収集に合わせるということか。

事務局：茨木市は溶融炉で分別は要さないが、災害等の有事の際、搬入先が限定されないよう、
また、これまで摂津市に根付いてきた分別の意識を継続いただくよう分別区分については、設定させていただいた。

委 員：令和5年4月からのプラスチック新法にかかる廃プラの回収についてはどのような考えか。

事務局：大阪府や国などに聞き取りをさせていただいている中で、プラスチックを回収して後の
資源化する事業者がいらないという現状があり、分別して回収した後に持っていく先が無いという課題がある。

委 員：茨木市になり市域の端に隣接しているため、時間を要することになるか。

事務局：これまでの市域に中心から、外れに変わるため場所によっては距離が延びるため時間を
要することになる。安威川以北では距離が遠くなるが、安威川以南の東の地域など近くなる場所もある。

委 員：災害等の話をされていたが、災害廃棄物処理はどうされるのか。

事務局：摂津市の施設は閉炉であるため、北摂地域での相互協定に基づきお願いすることになると考えている。

委 員：特に摂津市では水害のリスクが大きいと思われる。その際の分別等周知などの考えはどうか。

事務局：今年度、環境省の災害廃棄物モデル事業に参加させていただいている。住民参加のワークショップを実施しているところであり、災害時も分別等のマニュアル作りをさせていただいているところである。

委 員：災害時、特に水害は大量のごみが発生するが、搬出場所などはどうか。

事務局：リサイクルプラザを一時仮置き場として想定している。その場所が一杯になった場合は、次は公園等から選定することとなる。分別搬出に際しては、ボランティアにもご協力願うことになるため、社会福祉協議会にもお願いしたいと考えている。

委員：災害時に向けて日ごろからの分別の周知が大事であるとする。熊本における地震災害時においても、職員が疲弊するほど分別の徹底を呼び掛けていた。災害時は混乱が生じるため、事前の準備が必要である。

事務局：しっかりと周知していきたい。

委員：新しい分別区分の指定ごみについて、今後色付きビンのカゴを使うこととなる。水銀等も入り、混ざってわかりにくくなることが懸念されるため、プレートの配布等を積極的にしていただくと助かる。

事務局：おっしゃられるとおり、希望に応じ対応してまいりたい。

委員：集団回収の日程について、ガイドブックでの日程周知や広報での日程周知されているが、集団回収の日程は周知の日付とは別日での回収となるためややこしくなる。今現在も日程表の枠外に集団回収は別日程である旨示されているが、文字が小さくわかりにくい。自治会によっては日程表とは別に集団回収日程表を作り間違いないように啓発しているので、市からの案内も文字の色を変えるなどの工夫をして対応していただきたい。

事務局：実施していく。

【議事3：一般廃棄物処理基本計画（2）令和3年度の振り返りについて】

事務局より説明。

【質疑応答】

委員：コロナの影響などまだ残っているが啓発事業等についてはどうか。

事務局：市民環境フェスティバルについて、皆様のご協力もあり、3年ぶりに開催することができた。また、摂津市の環境センターにおいては最後の開催となる夏休みエコたんツアールも開催することができた。コロナ禍以前までというのは難しいものの、状況を見ながら、各事業を実施していきたい。

委員：組成分析についてどういった事業所を対象としているか。

事務局：毎年1回1台をピックアップして、展開し分析をしている。統計的なことを考えると何十台と実施し、広く数値を集計することが望ましいが、コストや労力等から難しいため、経年データでの分析を実施している状況である。

委員：基本計画の目標数値としてR7年度において、1人1日あたりのごみ排出量が948gとなっている。少し先ではあるが20gほど多い状況にある。また、1人1日あたりの家庭系ごみ排出量もR7中間目標値438gであり、差異がある。コロナの影響もあり予定通りとはならないかもしれないが、目標に向かって削減を続けていかなければならない。目標を達成するため、状況に応じて対応を考えていかなければならない。茨木市と広域化開始にあたって、運営費の負担の一部がごみ量割となっていることから、ごみを減らせれば減らすほどコストが低くなる、といった点をアピールしていくことも有効ではないか。その他、啓発の場面等でごみ減量への感謝をお伝えするなど些細なことでも実施していくことが大事であるとする。

事務局：おっしゃられるとおり色々な視点を持って目標達成に向けた減量啓発を行っていきたい。

➤ 委 員：マイバック持参率が摂津市が低いことについて、対策等の考えは。

事務局：北摂において、摂津市のみが低いということを考えると、まず摂津市の特徴として、事業所の数が多く、昼間人口が多いということがある。現段階においては考察という段階ではあるが、例えば出勤してこられた方が、昼食や仕事帰りなどに買い物に行った場合の持参率というところで影響があることも考えている。また、統計の仕方というのも影響があると考えており、協定を組んでいただいているスーパーでの集計を報告いただいている。その中にはコンビニは入っていない。

委 員：確かに出先や勤務先から買物、勤務帰りの買物では、マイバック持って行っていないこともあるかもしれない。昼間人口の多さと、摂津市においては人口に対する比率から割合が高くでることも考えられるのではないか。レジ袋削減を目指すうえで、個人はもちろん事業所への協力のお願いをするのもあるのではないか。

事務局：啓発の手段の一つであると考えている。

委 員：茨木市への経路について、茨木市環境衛生センターは馴染みがない。リサイクルプラザの橋を渡っていくことはできないのか。

事務局：連絡橋での搬入は直営と許可事業者に限定している。一般受付は衛生センター表面から入る必要があるためということと事故防止の観点からそのような形にしている。

【その他連絡事項について】

開催時期について、年度末となったため次年度は少し早い時期での開催を考えたい。